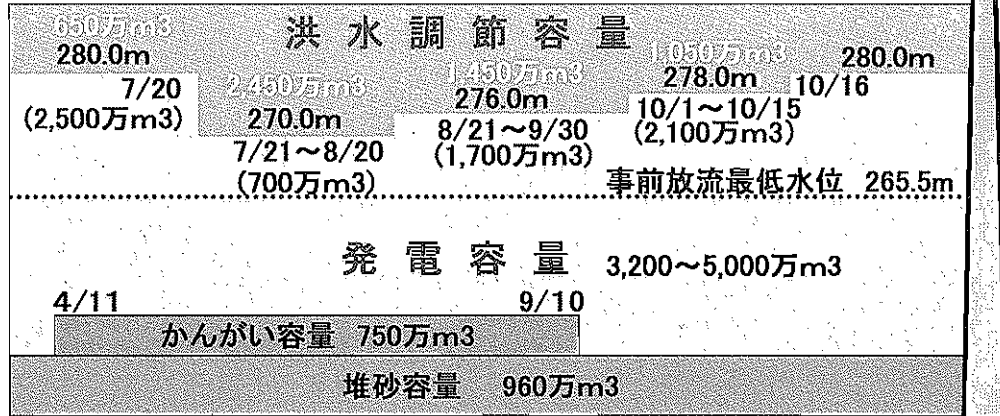
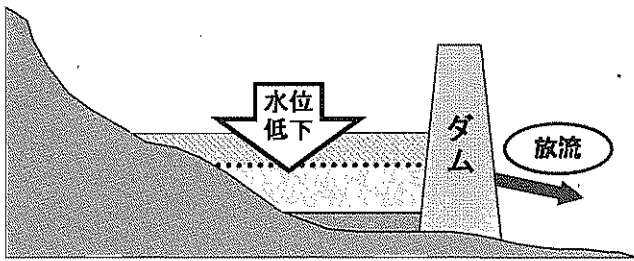


宮川ダムの洪水調節方法について

容量配分図

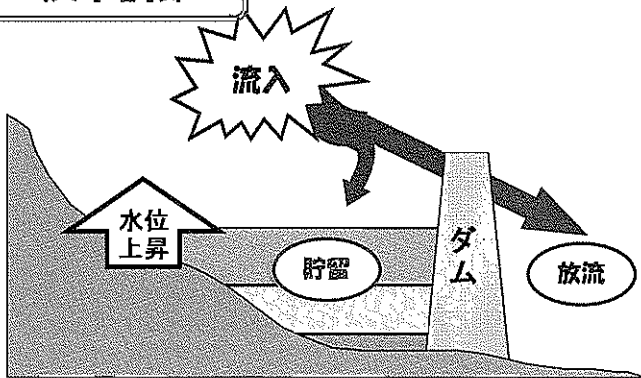


事前放流



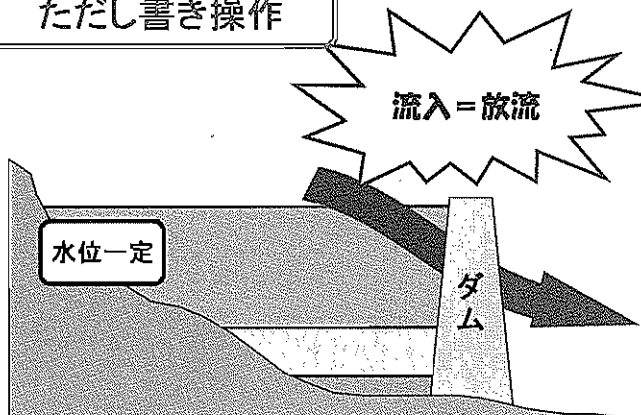
- 平成17年8月1日 運用開始
- 台風や前線等の影響により、流域内の総雨量が150mmを超えると予測される場合、必要に応じて発電用に貯留した水の一部を、洪水が発生する前に放流し、洪水調節のための容量を一時的に増加させる操作
- 事前放流の最低水位は、ゲート数高のEL265.5m
- 放流量は無害流量である600m³/sを限度
- 現在まで事前放流の実績なし

洪水調節



- 平成19年7月14日 操作規則変更
 - ・洪水量を500m³/sから600m³/sへ見直し
 - ・洪水調節方法の見直し(一定率・一定量方式)
- 流入量が600m³/sに達した時点から洪水調節開始
- 流入量が600~2500m³/sの間は、流入量の600m³/sを超える分の約53%を貯留(一定率放流)
- 流入量が2500m³/s以上の場合は、1500m³/sの一定量放流

ただし書き操作



- ダムの水位がサーチャージ水位(洪水時最高水位)を超えると予測される場合、通常の調節方法から放流量が流入量に等しくなるような操作を行い、水位の上昇を抑える
- 貯水水位が「ただし書き操作」開始水位(EL280.7m)を超え、さらにサーチャージ水位(洪水時最高水位 EL283m)を超えると予測される場合、「ただし書き操作」に移行
- 宮川ダムでは、過去3回「ただし書き操作」を実施
 - ・平成 4年8月洪水
 - ・平成13年8月洪水
 - ・平成16年9月洪水